

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 3 報
千葉県農林水産部
平成27年6月26日

「ふさおとめ」「ふさこがね」は出穂期間近 「コシヒカリ」は移植日・地域による生育進度の差が大 生育の進みに応じた適期作業を

[生育概況]

4月20日頃に移植した「コシヒカリ」は、「ふさおとめ」「ふさこがね」と同様、県内の多くのほ場で平年より10日程度早く幼穂形成期を迎えました。ただし、6月中旬の低温の影響により、地域による生育進度の差が見られます。

また、5月1日頃に移植した「コシヒカリ」は、平年より3日から5日程度早く幼穂形成期を迎えると予測されます。

なお、「コシヒカリ」の草丈、葉色は平年並みですが、4月20日頃に移植した茎数はやや多い傾向となっています。

表 1 品種別の幼穂形成期の生育状況

品種	植付時期	平年比 ※			
		生育進度（幼穂形成期※）	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日頃	早い（6月7日）	並	並	並
ふさこがね	4月20日頃	早い（6月9日）	並	並	並
コシヒカリ	4月20日頃	早い（6月15日）	並	やや多い	並
	5月1日頃	やや早い（6月27日）	並	並	並
ふさのもち	4月20日頃	早い（6月13日）	低	多い	並
	5月10日頃	並	並	並	並

※平年比は過去5か年（2010～2014年）の平均値との比較

※幼穂形成期は、農林総合研究センター（千葉市）のほ場

※5月10日頃植付の「ふさのもち」は幼穂形成期を迎えていないため、6月24日現在の生育状況を記載

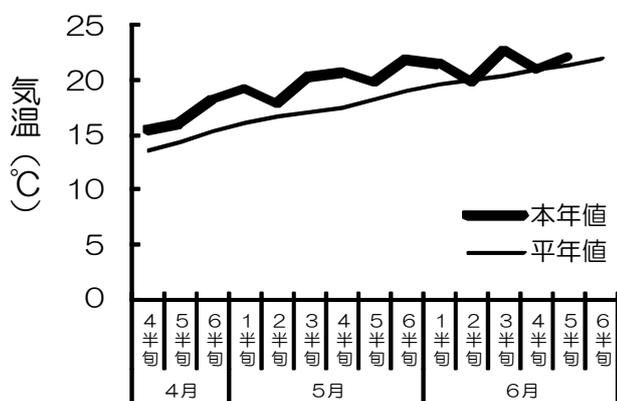


図 1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

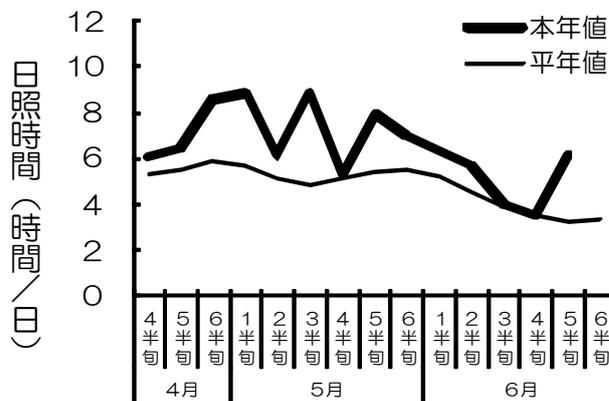


図 2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ 生育の進みに応じた適期作業の実施

4月20日頃に移植した水稻は、各品種とも平年より10日程度早く幼穂形成期を迎えました。

また、5月1日頃に移植した「コシヒカリ」は、平年より3～5日程度早く幼穂形成期を迎えると予測されます。

なお、6月中旬の低温により、地域による生育進度の差が大きくなっています。表2を参考に、ほ場をよく見て、生育の進みに応じた作業を適期に実施しましょう。

表 2 品種別の出穂期予測と冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期 (千葉市)	冷害危険期 予測(月日)	出穂期予測(月日)			
				県北 (成田市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	6月7日	—	7月7日	7月5日	7月4日	7月7日
ふさこがね	4月20日	6月9日	—	7月9日	7月7日	7月6日	7月9日
コシヒカリ	4月20日	6月15日	～7月7日 頃まで	7月17日	7月13日	7月12日	7月15日
	5月1日	6月27日	7月6日頃～ 7月14日頃	7月24日	7月21日	7月24日	7月24日

※幼穂形成期は、農林総合研究センター(千葉市)のほ場で、「ふさおとめ」「ふさこがね」は4月20日植付、「コシヒカリ」は4月20日と5月1日植付のほ場

※冷害危険期は、出穂前15日～10日

※出穂期とは全莖数の40～50%が出穂した日で、出穂期予測は水稻作柄安定対策調査結果から

■ 「コシヒカリ」の穂肥

穂肥施用適期は出穂前18～10日(幼穂長が1cm～8cm)です。

「コシヒカリ」の幼穂形成期は、4月20日頃の移植で平年より10日程度早く、また、5月1日頃の移植で平年より3～5日程度早くなっており、出穂期も同様に早いと予測されます。ほ場ごとに幼穂長を確認し、表3、4、5を参考に穂肥を施用しましょう。

表 3 コシヒカリ(4月20日植え、5月1日植え、千葉市)の穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期(農林総合研究センター(千葉市)のほ場)	穂肥施用適期
コシヒカリ	4月20日	6月15日	6月24日から7月2日
	5月1日	6月27日	7月6日から7月14日

表 4 コシヒカリの幼穂形成期の生育目標

品種	草丈 cm	穂肥施用目標莖数	葉色(カラスケール値)
コシヒカリ	70以下	430～560(23～30本/株)	3.5～4.0

※莖数の()内は30cm×18cmで植え付けされた時の1株平均莖数

表 5 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色 (SPAD 値) × 莖数 / m ²	草丈 (cm)	予測される 生育・収量	対策		
			穂肥加減	穂肥時期	倒伏軽減剤
16,000 以下	70cm 未満	籾数が不足しやや減収	増肥、または時期を 2~3 日早める。		×
16,000 ~20,000	70~80cm	目標どおりの生育が期待	標準量※	標準	×
		籾数確保のため穂肥は必 要 稈長が伸び、倒伏が心配	標準量※	標準	必要
20,000 ~27,000	75cm 未満	籾数過剰となり、乳白米 の発生が心配	減肥（窒素施用量 1~ 2kg/10a）、 または時期を遅らせる。		×
	75~82cm	稈長が伸び、倒伏が心配	×	×	必要

※穂肥の標準成分量：窒素 砂質土3~4kg、壤質土3kg、房総南部の粘質土2kg（10a 当たり）
加里 3kg（10a 当たり）

＜参考＞コシヒカリにおけるカラスケール値と SPAD 値の関係

カラスケール値	3	3.5	4	4.5	5
SPAD 値	24.8	28.7	32.6	36.4	40.3

■ 水管理

○ 低温時には湛水

幼穂形成期以降に平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水（保温）しましょう。特に、表 2 に記載した冷害危険期は注意しましょう。

また、低温が予想される場合でも、穂肥は施用しましょう。

表 6 低温時湛水深の目安

幼穂形成期から冷害危険期まで（出穂 25~16 日前）	湛水深 10cm 程度
冷害危険期（出穂 15~10 日前）	湛水深 20cm 程度

○ 乳白米の発生を防止する水管理

出穂期から出穂 2 週間後は、米の品質を決定する重要な時期です。登熟期の水不足は、乳白米等の白未熟粒の多発生による品質低下の原因になります。湛水管理をしっかりと行い、品質低下を未然に防ぎましょう。

※自然由来のカドミウムの吸収を抑えるためにも必要な技術です。

■ 病害の防除

病害虫発生予報第 3 号（農林総合研究センター 6 月 10 日）によると、主な病害の発生量は平年と比較して、いもち病（葉いもち）は「並」、紋枯病は「やや多」と予想されています。ほ場をよく見回り、適期に防除しましょう。

○ いもち病

いもち病は、平均気温 20～25℃で曇雨天が続いて茎や葉の湿っている時間が長いときに感染しやすい条件です。葉いもち予防の粒剤は、発生する前に散布する必要があります。葉に病斑が多数見られるほ場では、予防効果と治療効果を兼ね備えた薬剤を直ちに散布しましょう。治療効果のある薬剤は、発生後の早い段階の防除で高い効果が期待できます。薬剤等は「水稻の生育状況と当面の対策 第2報」（平成27年6月17日）を参照してください。

○ 紋枯病

紋枯病は、茎数が多いと発生しやすくなります。また、紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。薬剤等は「水稻の生育状況と当面の対策 第2報」（平成27年6月17日）を参照してください。

○ 稲こうじ病

稲こうじ病は、穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では、防除時期である出穂前に、表7を参照して薬剤防除しましょう。

表7 稲こうじ病の主な防除薬剤

薬剤名	使用基準	10a 当たり使用量
ブラシン 粉剤 DL	収穫7日前まで2回	4kg
ブラシン フロアブル 1000 倍液	収穫7日前まで2回	60～150ℓ
モンガリット粒剤	収穫45日前まで2回	3～4kg
ラテラ粉剤 DL	収穫14日前まで3回	3～4kg
撒粉ボルドー粉剤 DL	出穂10日前まで	3～4kg
Zボルドー粉剤 DL	出穂10日前まで	3～4kg

※農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

■ 斑点米カメムシ類の防除

○ 畦畔の草刈りは出穂2週間前まで

出穂期前後の草刈りは、カメムシ類をほ場の中に追い込んでしまいます。畦畔雑草は出穂2週間前頃までに刈り取りましょう。

○ 大型の斑点米カメムシ類の防除適期は穂揃期と出穂15日後頃

斑点米カメムシ類は、水田周辺に生息していた成虫が水稻の出穂後に水田に侵入して産卵します。斑点米の被害は、成虫よりも幼虫による被害が大きく、乳熟期から糊熟期の吸汁によって被害が発生します。

防除適期は、成虫飛来期である穂揃期と幼虫発生初期である出穂15日後頃です。

出穂が、周辺よりも早いものや遅いものは、集中的な被害を受けることがあるので、注意が必要です。

○ カスミカメムシ類は発見しにくいので注意

アカスジカスミカメ等のカスミカメムシ類は、小さく発見しにくい害虫です。天候と生育の関係で登熟中の籾殻が開く（籾割れ・ふ割れ）と、開いた所から吸汁し被害を与えます。早期発見のため、ほ場をよく見回り、穂揃期頃水田に飛来した成虫を防除しましょう。

表 8 斑点米カメムシ類の防除薬剤

収穫前使用日数	薬 剤 名
収穫 7 日前	エルサン粉剤 3DL、MR.ジョーカー粉剤 DL、トレボン粉剤 DL、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤、スタークル（アルバリン）粉剤 DL、ダントツ水溶剤、ダントツ粉剤 DL、エルサンバッサ粉剤 20DL
収穫 14 日前	MR.ジョーカーEW、トレボン MC、ベストガード粉剤 DL、キラップフロアブル、キラップ粉剤 DL
収穫 21 日前	スミチオン乳剤、スミチオン粉剤 3DL、アクタラフロアブル

※農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。



図3 アカスジカスミカメの成虫
成虫の体長は約 5~6mm
(農林総合研究センター病害虫防除課)

■ 農薬散布の注意点

○ 農薬の収穫前使用日数に注意

各品種とも平年と比較して出穂期が早まる見込みです（表2）。

ほ場ごとの出穂期をよく確認し、表9の出穂期から収穫期までの目安の日数を参考に、収穫時期の見込みを立て、各農薬の収穫前使用日数に注意して、農薬を使用しましょう。

なお、隣接圃場の方が収穫時期が早くなることが見込まれる場合は、より慎重に散布を行いましょう。

表 9 出穂期（※）から収穫期までの目安の日数

ふさおとめ	33 日前後
ふさこがね	37 日前後
コシヒカリ	38 日前後

※出穂期とは全茎数の 40~50%が出穂した日

※目安の日数は、平年並みの天候の場合

○ 農薬の飛散防止

農薬の散布に当たっては、周辺への飛散を防止するため次に示す事項に注意しましょう。

- 風の弱いときに風向きに注意して散布する
- 散布の方向や位置に注意する
- ドリフト低減ノズルなど適切なノズルを用い、適正な圧力で散布する
- 近接する住宅や作物の生産者等と連携する
- 緩衝地帯を設ける
- 遮蔽物を設ける
- 飛散しにくい剤型を選ぶ



図4 コシヒカリ（5月1日植え）
農林総合研究センター（千葉市）6月25日撮影
平年より3日早く、6月27日幼穂形成期見込み



図5 ふさおとめ（4月20日植え）
農林総合研究センター（千葉市）6月25日撮影
穂ばらみ期を迎え、7月4日頃に出穂見込み

出穂期前に、止葉の付け根を見て、
出穂期を判断！

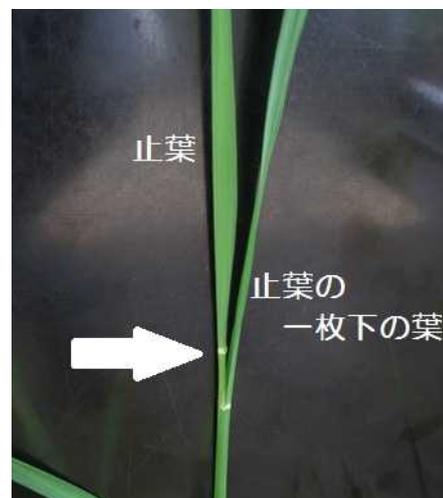


図6 止葉の付け根（矢印の位置）が現れてから10日後程度で、出穂期となる。

■ 飼料用米等の取組計画書の提出期限が延びました！

取組計画書の提出期限が6月末日から「7月末日」までに1か月間延長されました。本年産においても米価回復の兆しは見ていません。今からでも飼料用米に取り組むことができますので、最寄りの市町村にお問い合わせください。

■ 飼料用米の冷害対策

「アキヒカリ」「初星」「夢あおば」「べこあおば」は耐冷性が弱いため、低温の持続が予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水（保温）しましょう。

■ 稲発酵粗飼料（WCS用イネ）栽培での農薬使用の注意点

稲発酵粗飼料栽培での農薬使用は、農薬に対する飼料中残留基準値を定めた農薬が選定されているため、確認し使用しましょう。また、生育が早まっているため、使用時期に注意しましょう。

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、7月15日に発行予定です。